

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

創設 121 年目を迎える府立富田林高等学校に大阪府立初の（併設型）中高一貫校として併設された本校は、6 年一貫した教育を通して生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材（グローバル・リーダー）の育成を使命とするとともに、未来に向けた挑戦を続ける。

<中高一貫校としてめざす学校像>

「地球的視野に立ち、地域や国のことを考え行動し、国際社会に貢献する人材」の育成校をめざす。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 45分×7限授業（35単位時間（45分授業））により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。

イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。

エ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

オ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用するなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。

カ 1人1台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒）学校教育自己診断における授業満足度 80%以上をめざし、その後も 80%以上を維持する。 (H30 80% R1 86% R2 92%)

## 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。

ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。

※（生徒）学校教育自己診断における「探究活動の満足度」80%以上をめざし、その後も 80%以上を維持する。 (H30 81% R1 83% R2 85%)

また、「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度 70%以上をめざし、令和5年度には 75%以上をめざす。

(H30 66% R1 75% R2 78%)

## 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。

イ 人権教育を推進するとともに、国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。

ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

※（生徒）学校教育自己診断の学校行事満足度 90%（令和元年度は 89%）をめざし、その後も 90%以上を維持する。(H30 88% R1 89% R2 92%)

(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（マレーシア、台湾、ベトナム、タイ、オーストラリア、アメリカ等）の充実及び新たな交流国の開拓

イ ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒）学校教育自己診断結果で「国際交流等を通じたグローバルな視野とコミュニケーション力の育成」90%をめざし、その後も 90%以上を維持する。

(H30 89% R1 93% R2 96%)

## 4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携

(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。

イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクールとして相応しい学校 Web ページの充実を図るとともに、情報発信について質・量ともに改善する。

※（保護者）学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%をめざし、その後は 90%以上を維持する。(H30 93% R1 88% R2 92%)

(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして広域外部サポーター（同窓会・企業・大学・自治体・NPO等）と連携のもと魅力ある学校づくりの推進

イ 安全・安心な学校づくり

ウ 地域貢献を推進

※（生徒）学校教育自己診断における学校満足度 90%以上(令和元年度は 96%)をめざし、その後も 90%以上を維持する。

(H30 86% R1 96% R2 97%)

また（保護者）学校教育自己診断における学校満足度 90%以上をめざし、その後も 90%以上を維持する。

(H30 93% R1 94% R2 95%)

## 5 働き方改革の推進

(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。

ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。

イ 校務の見直しによる業務の軽減化

ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>( ) 内は昨年度</p> <p>1. 学校満足度</p> <p>* 生徒・保護者ともに満足は高い。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>(生徒)「富田林中学校に入学してよかった」95% (96)</p> <p>(保護者)「富田林中学校で学ばせることが出来てよかった」97% (95)</p> <p>2. 学力の育成</p> <p>* 授業改善にむけた取組みがさらに進んだことがわかる。(生徒回答)</p> <p>* 保護者は学力の育成に対する取組みに概ね満足。</p> <p>* 生徒が ICT を活用する教育活動の研究について推進が必要(新規)</p> <p>* 必要な宿題の量と生徒の家庭学習状況のバランスの調整が引き続き必要。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>① 授業</p> <p>(生徒)「わかりやすく興味が持てる授業」93% (92)</p> <p>「内容を深く考えさせる授業」93% (92)</p> <p>「生徒の ICT 機器活用度」63% (新規)</p> <p>(保護者)「学校の学習活動への取組に満足」89% (90)</p> <p>(教員)「『主体的・対話的で深い学び』を意識した授業」83% (89)</p> <p>「生徒が ICT 機器を活用する授業」75% (新規)</p> <p>「授業方法等を検討する機会」83% (83)</p> <p>② 家庭学習</p> <p>(生徒)「宿題の量は適切である」60% (63)</p> <p>3. 学校生活</p> <p>* 生徒指導全般についてかなり充実してきた。</p> <p>* 生徒が学校生活について主体的に考え、生徒同士が高め合い認め合える学校づくりを推進していく。また、教員が生徒理解に基づいた指導方法の習得及び改善を進めることが引き続き必要。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>(生徒)「生活指導に満足」91% (83) 「いじめ対応に満足」94% (90)</p> <p>「悩みを相談できる先生」63% (57)</p> <p>「悩みを相談できる友人等」86% (86)</p> <p>4. 特色ある取組、豊かな感性</p> <p>* 本校独自のグローバル教育についての取組み及び学校行事に関して生徒・保護者両者は概ね満足。</p> <p>* コロナ禍における国際交流、海外研修などのプランニングや実施方法については研究が必要。</p> <p>* 総合的な学習の時間などの探究活動については、プログラムの充実が必要。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>① 国際教育</p> <p>(生徒)「グローバルな視野とコミュニケーション力育成に満足」93% (96)</p> <p>(保護者)「国際交流満足度」92% (94)</p> <p>② 探究活動</p> <p>(生徒)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」86% (85)</p> <p>(教員)「探究活動(深く考え、情報を収集し、発表する力の育成)」83% (89)</p> <p>③ 学校行事</p> <p>(生徒)「学校行事への満足度」99% (92)</p> <p>(保護者)「学校行事への満足度」89% (91)</p> <p>5. 情報発信</p> <p>* 学校からの情報発信については概ね良好である。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>(生徒)「情報発信に満足」90% (92)</p> <p>(保護者)「情報発信に満足」88% (92)</p> <p>(生徒)「学校からの連絡を保護者に伝えている」86% (84)</p> <p>(保護者)「学校からの連絡を子ども通じて把握」65% (67)</p> <p>6. 学校経営</p> <p>* 学校経営方針は明確化されている。</p> <p>* 中・高教員間連携については5年目を迎え連携が本格化した。そのため新たな課題に対する検討が必要。</p> <p>* 中高一貫校の中学校長としての役割を明確にするとともに、産学官協働による教育活動を推進する。</p> <p>&lt;主な結果&gt;</p> <p>(保護者)「教育理念や学校運営方針の表明」90% (90)</p> <p>(教員)「教育理念や学校運営方針の表明」92% (94)</p> <p>(保護者)「新しい教育活動への対応」92% (88)</p> <p>(教員)「分掌、教員間、中・高教員間の連携」25% (61)</p>	<p>■第1回 令和3年6月24日(木)</p> <p>○報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の組織改編</li> <li>・中学における生徒支援・学力向上</li> <li>・中高のパンフレット・HPの刷新</li> <li>・「富田林中学校・高等学校 学校運営協議会実施要項」及び構成員について</li> <li>・令和2年度CS関連事業実績報告</li> <li>・教科用図書選定(中間報告)</li> <li>・中学校の制服について</li> </ul> <p>○協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度CS関連事業活動計画について</li> <li>① 未来に向けたコミュニティ・スクール構想について</li> <li>* 外部から資金等の面で援助を受けるために</li> <li>・「探究」で活躍した生徒が世界に羽ばたき地域に戻って活躍すれば、地元企業も協力してくれる。</li> <li>・企業に対して生徒の意見・アイデアを商品として提案するなど、win-winの関係にならないといけない。</li> <li>・企業は社会貢献を意識して経営しているので、企業理念を分析した上で提案するのが近道。</li> <li>* CSネットワークにおける瞬発性を高めるために</li> <li>・現在のネットワーク、特にグローバルな分野では個でのつながりが多い。</li> <li>・組織的に取り組むために、同窓会等とのワーキンググループでの検討を経て、拠点化するのも大切。</li> <li>・海外の学校と交流しているが、国内の学校ともダイナミックにつながるようになればよい。</li> <li>② フリースクール(トゥルーカラーズ)について</li> <li>・富校で不登校になる生徒には、複数のタイプがある。</li> <li>それぞれのタイプに合わせるために、できるだけ早く接触して対応していくのがよい。</li> <li>・中学とは連携が取れているが、高校の情報はあまり入ってこないようだ。</li> <li>高校段階でもできることがあるので、高校との情報共有ができればよい。</li> </ul> <p>※「フリースクールとの提携(出欠・成績・考査監督等の扱い)を継続する」ということを承認。</p> <p>■第2回 令和3年12月1日(水)</p> <p>○報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の進捗及び課題解決について</li> <li>・教育活動に係る企業連携(社会協働活動)等について</li> <li>・中学校の制服検討に係る進捗状況について</li> <li>・教科用図書選定について</li> </ul> <p>○協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 報告に係る意見交流</li> <li>・学力保障について中高ともに様々な取組みをする一方で、依然として習熟率は中高ともに高い状況にある。</li> <li>・探究については、中学の段階からSSHの視点を入れていくよう期待する。</li> <li>・中学校の制服については、様々な観点で議論する中、LGBTQの観点を踏まえ、今後も検討していただいたい。</li> <li>② 地域学校協働活動について</li> <li>～地域学校協働本部(NPOまなそだネット運営)と学校との連携について～</li> <li>* NPO法人学びと育ち南河内ネットワークが運営する「探究教室」に富田林中学校生徒の参加者が現在いない状況について</li> <li>・地域学校協働活動という共通認識の上で、学校としても推進していただきたい。</li> </ul> <p>※「NPO法人学びと育ち南河内ネットワークが運営する『探究教室』を地域学校協働活動として位置付ける」ということを承認。</p> <p>■第3回 令和4年2月22日(火)</p> <p>○報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断に基づく学校関係者評価について(高校・中学)</li> <li>・令和4年度学校経営計画について(高校・中学)</li> </ul> <p>○協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 報告に係る意見交流</li> <li>「学校関係者評価について」、「令和4年度学校経営計画について」</li> <li>* ヤングケアラー</li> <li>・令和4年度の学校経営計画にヤングケアラーの項目が高校には入っているが中学校の方には入っていない。中学校にも入れるべきではないか。</li> <li>・生徒は自分がヤングケアラーだと気づきにくいので、学校からも気づくための手立てが必要ではないか。</li> </ul>

## 府立富田林中学校

- ・SSW を介して児童相談所などに入ってもらったケース会議を開き、学校・福祉それぞれの役割を把握することが必要ではないか。
- ・学校教育自己診断（生徒）で、進路情報についての項目は数値あがっているのに対し、目標をもって学校生活を送っているかの項目については微減している。現在、ヤングケアラーについてはトップダウンで降りてきているが、富校らしいケアができたらいいのではないか。

## \*学校教育自己診断から見る課題

- ・中高連携についての項目が中高ともにダウンしている。
- ・中学の「学校運営に教職員の意見が反映されている」の項目がダウンしている。
- ・データを踏まえたマネジメントは重要であり、自分たちの組織の変化を確認することができる。
- ・報告に係る意見交流  
「学校関係者評価について」、「令和4年度学校経営計画について」
- ・中学校の制服について

## ② 中学校の制服について

- ・生徒や保護者に説明する際に、次のような配慮は必要ではないか。
- ・「制服着用についての教育的価値」や「式典時の課題」について、分かりやすく伝える。
- ・性別に関係なく制服を選べるのに、「女子用」とか「男子用」という文言があるのはよくない。
- ・新制服が「LGBTQ 用の制服」というイメージがつかないように。

※原案「制服は常時着用とし、新たにデザインを追加する。（性別に関係なく、学ラン・セーラー服・ブレザー（パンツ、スカート選択可）のいずれかを選択する）  
以上について適切である。

## ■第4回 令和4年3月5日（土）

## ○協議

## ① 地域フォーラムについて

- ・「地域」は子供たちが参加する最初の「社会」であり、「とんこう地域フォーラム」は地域にとっても、子供たちにとっても、学びを核にして成長する掛け替えのない機会になっている。
- ・自分の抱いた疑問や違和感をテーマとし、学内外から様々なアドバイスや指導を受け、しっかり掘り下げて形になるところまで作り上げている。
- ・大勢の前で発表することにより、達成感を感じ、プレゼン力の必要性も知り、自己肯定感も生まれる。
- ・発表テーマが多岐にわたり、SDGs も意識され、身近な事柄を扱っている。地域や企業・団体との繋がりから、発表内容を実際の活動・運動に繋げ、生徒たちの進路実現に活かせればなお良い。
- ・もう少し他業種の参加があればいい。

## ② 今年度の振り返りと来年度に向けて

- ・今年度は、コミュニティ・スクールとしてのミッションの実現と、新学習指導要領を実装するための取組みにおいて成果を上げている。他方で、「良いことは何でもやっ払いこう」という態度は大変すばらしいが、必然的に教職員の多忙化をもたらしている。
- ・来年度以降は教育的取組みにもコスト意識を持ち、あげた成果を列挙するだけでなく、どのようにしてあげた成果なのかが問われる。
- ・高校教職員に向けてコミュニティ・スクール研修会（今なぜコミュニティ・スクールに仕組みが必要とされているのか）を開催してはどうか。
- ・以前のように、生徒の代表を入れての熟議の機会があればよい。
- ・新型コロナの蔓延状況に関わらず、ハイブリット型（集合+オンライン）の学校運営協議会を設定したい。
- ・中高一貫校の成功例を私学も含めて視察し、情報を集めたほうがよい。
- ・教職員の多忙化や施設の問題については、学校運営協議会として教育庁に意見を言ってもよい。

## 府立富田林中学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度数値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) カリキュラムマネジメントに基づき教育課程を編成し、各教科・科目においては「わかる授業、充実した授業」をめざした授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。</p> <p>ア 45分×7限授業(35単位時間(45分授業))により、2学期制のもとに確かな学力の育成に取り組む。</p> <p>イ 「授業改革推進委員会」を核として、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>ウ 6年一貫のCan-doリストに基づく英語の運用能力の素地を育成する。</p> <p>エ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>オ 学習時間を記録する生徒手帳の機能を活用するなど、家庭での学習習慣の確立のための工夫をする。</p> <p>カ 1人1台端末の導入に向けて校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>ア・45分×7限授業(中学校では週35単位時間)により、学校生活をデザインする。</p> <p>イ・年度当初に教科ごとにアクティブラーニングの取組を検討し、各教員が「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。</p> <p>・定期考査において、「思考力・判断力・表現力」を問う問題づくりを進め、教科の枠を超えて学び合えるように取り組む。</p> <p>・中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施するとともに、全教科の教科研修を一定期間設け(授業交流週間 WEEKS)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくる。また、授業観察シートを活用して教科の専門性を超えた授業研究を行う。</p> <p>・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。</p> <p>ウ・毎朝始業前に10分間の「モーニング・イングリッシュタイム」を実施し、中学校初期段階からリスニング力を強化する。</p> <p>・オールイングリッシュでの体験をベースとした「イングリッシュキャンプ」等を1・2年生で実施する。</p> <p>・中学1・2年生全員に英語能力試験(外部試験)を実施する。</p> <p>エ・中高の各教科において、それぞれの3年間の学びを可視化し、それを学校案内パンフレットに反映させる。</p> <p>・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究など他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。</p> <p>オ・家庭学習記録を作成することで、家庭での学習時間を増やす。</p> <p>カ・ICT教育推進委員会を立ち上げ、校内体制の強化を図る。</p> <p>・ICT環境の一層の充実を図るとともに、全教科でICT機器を活用した授業を展開し、成果を生徒用学校教育自己診断で測る。</p> <p>・デジタル教科書を導入し、研究実践を行う。(一部教科)</p> <p>・家庭学習における効果的なICT活用方法を探る。</p> <p>・ICT教育先進校等の情報収集を行う。</p>	<p>ア・(生徒)学校教育自己診断における授業満足度85%以上[92%]を維持向上する。</p> <p>イ・(教員)学校教育自己診断「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を意識して授業をしている。」90%以上[89%]</p> <p>・(教員)授業検討機会満足度80%以上[83%]</p> <p>・(生徒)深く考えさせる授業満足度85%以上[92%]</p> <p>ウ・(教員)グローバル教育推進度90%以上[94%]</p> <p>エ・(教員)</p> <p>・「各教科において、学びの内容についての議論が行われたか。」70%以上[新規]</p> <p>オ・(生徒)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」60%の維持向上をめざす。[65%]</p> <p>カ・(教員)学校教育自己診断「ICTを活用した学びについて改善が進んだ」70%以上をめざす。[新規]</p>	<p>ア・(生徒)授業満足度93%(○) 満足度は高水準を保っている。次年度も85%以上を維持していきたい。</p> <p>イ・(教員)「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)を意識した授業 コロナ禍の状況で対話的な手法(アクティブラーニング)を取りづらかった点を考慮するとおおむね達成。「思考力・判断力・表現力」を問うテスト問題づくりについては中高一貫して取り組めた。次年度については90%以上をめざす。88%(○)</p> <p>・(教員)授業検討機会満足度83%(○) 中高合同の地域公開研究授業(DAY)を実施(11月)、授業交流週間(WEEKS)(5月・11月)、各教科での研究授業を他教科からも授業参観がしやすい環境をつくった。その際、授業観察シートを活用した教科の専門性を超えた授業研究を行えた。</p> <p>・(生徒)深く考えさせる授業満足度93%(○) 教育センターや専門家の指導助言をいただく研修を中高合同で実施(8月・11月)「思考力・判断力・表現力」を育む授業改善に努めた。次年度は教育センター、専門家からの指導助言の体制充実をめざし85%以上維持する。</p> <p>ウ・(教員)「国際交流・イングリッシュキャンプ、海外研修をとおしてグローバル教育を推進」83%(△) ※教員への質問内容が「国際交流・イングリッシュキャンプ、海外研修を通して…」となっており各活動にかなりの制限がかかったため満足度が低下したと分析する。ただ、生徒の満足度は93%、保護者は92%でありICTを活用することによりグローバル教育自体はコロナ禍の状況でも維持できたと思われる。次年度は校内外の先進的な取組みを学ぶ機会を充実させ、90%以上をめざす。</p> <p>エ・(教員)授業検討機会満足度83%(○) パンフレット作成の過程で中高一貫したカリキュラムマネジメントが進んだ。成果物として6年間の学びを可視化した新たな学校案内パンフレットを完成させた。</p> <p>オ・(生徒)学校教育自己診断「家庭学習を平均して1日90分以上している」60%[65%](○) 通学時間(府内全域)がかかる状況を克服することが課題。すき間時間(通学時間含む)を活用した学習方法(ICT活用等)を研究し、65%の達成をめざす。</p> <p>カ・(教員)学校教育自己診断「生徒たちがタブレットを活用した授業を行っている」75%(◎) オンライン英会話(新規)、デジタル教科書普及推進事業(新規)により生徒がICTを使う機会が大幅に増えた。また、企業連携によりモーニング・イングリッシュタイムの内容が進化した。次年度は使い方の研究を推進し、80%以上をめざす。</p>

## 府立富田林中学校

<p>2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取り組み</p>	<p>(1) 中高一貫して「探究」と「貢献」をキーワードに教育活動を組み立て、地域に対する愛情を基礎に、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。</p> <p>ア・「総合的な学習の時間」では、学年に応じた探究プログラムを改善し、地域をフィールドとして広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)と協働で、課題発見や課題解決能力の育成等、科学的リテラシーを育成するとともにキャリアプランニング能力を育成する。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のためのシステムを構築する。</p>	<p>ア・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会を設ける。(講座、講演、出前授業等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な学習の時間の中で探究活動の素地を育成する。</li> <li>総合的な学習の時間の中で、大学や高校教員による自然科学に関する専門的な講座を開設することにより、自然科学探究への意欲・関心・態度を育成する。</li> <li>総合的な学習の時間の中で「探究」と「貢献」をキーワードとした教材を活用し、自己肯定感を高めるとともに将来の進路や生き方について考え、自ら切り開いていこうとする姿勢を身に付ける。</li> <li>広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を基礎に、課題を見付け、その解決に向けて生徒が協働的に取り組み、成果を「とんこう地域フォーラム」等で発表する。</li> </ul> <p>イ・学力向上推進組織を再編整備し、機能強化を図る。(学力向上戦略チーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒全員に学力生活実態調査を実施し、将来の目標を早期に発見させる。</li> <li>毎週火曜日の学習優先日に学習支援を実施する。</li> </ul>	<p>ア(生徒) 将来の生き方や進路について考える機会満足度 75%以上 [78%]</p> <p>(教員) 外部団体連携満足度 90%以上 [100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(生徒) 学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度80%以上の維持向上をめざす。 [85%]</li> <li>(生徒) 学校教育自己診断における「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度70%以上の維持向上をめざす。 [78%]</li> <li>(教員) 企業・大学・自治体等の外部団体等との連携による教育活動の充実度 90%以上 [100%]</li> </ul> <p>イ・中高学力向上戦略委員会との連携による中高を通じた学力向上策として教職員研修の2回以上の実施をめざす。 [2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力生活実態調査の分析結果保護者説明会の2回以上の実施をめざす。 [2回]</li> <li>広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携により学習優先日(毎週火曜日)に中学・高校教員、高校生、地域人材(大学生等)を活用した学習支援の通年実施をめざす。</li> <li>地域学校協働本部との協働による大学入試説明会の実施(1回以上)をめざす。 [1回]</li> </ul>	<p>ア(生徒) 将来の生き方や進路について考える機会満足度 77% (○)</p> <p>総合的な学習の時間の中で将来の生き方や進路について考える機会を設けた。具体的には大学入試セミナー(10月)、講演トップランナー講演(10月)、社会探究・課題解決型探究出前授業(11月・12月)等を開催した。次年度は内容の充実を図り75%以上をめざす。</p> <p>(教員) 外部団体連携満足度 100% (○)</p> <p>コミュニティ・スクールのしくみを活用し、広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携を図った。連携企業等100(内協働企業50)のうち、企業ロゴマークを一部掲載。次年度も90%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(生徒) 学校教育自己診断における「総合的な学習の時間」の満足度 86% (○)</li> <li>コミュニティ・スクールのしくみを活用し、産官学連携した総合的な学習の時間(主に探究の時間)を行った。具体的には南河内探究(1年)社会探究(2年)課題解決型探究(3年)。次年度はスーパーサイエンスハイスクール(高校)として、科学的な領域の充実を図り満足度85%をめざす。</li> <li>(生徒) 学校教育自己診断における「これからの時代や自分の将来について考える機会がある」の満足度77% (○)</li> <li>(教員) 企業・大学・自治体等の外部団体等との連携による教育活動の充実度 100% (○)</li> </ul> <p>イ・再編整備した組織として中高学力向上推進委員会を設置した。同委員会の活動として中高を通じた学力向上策として教職員研修を4回実施。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力推移調査及び総合学力調査の分析結果保護者説明会を2回実施。(○)</li> <li>広域外部サポーター(同窓会、自治体、企業、大学、NPO等)との連携により学習優先日(毎週火曜日)に中学・高校教員、高校生、地域人材(大学生等)を活用した学習支援の通年実施した。具体的には従来から開設している「富中未来塾(補充学習)(1回/週)」に加え「TonTon Stady(自主学习支援)(5回/年)」を新規で開始(○)</li> <li>地域学校協働本部との協働による大学入試説明会を1回実施(10月)。(○)</li> </ul> <p>次年度は中高学力向上推進委員会の活動内容充実(研修の充実等)を図る。</p>
--------------------------------	--	--	---	--

府立富田林中学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み</p>	<p>(1) 充実した学校生活こそが、「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。</p> <p>ア &lt;中高一貫教育を通して育みたい力&gt;の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励し文武両道をめざす。</p> <p>イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成する。</p> <p>ウ 互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p> <p>(2) 異文化交流による国際教育を中高一貫して推進する。</p> <p>ア 国際交流(台湾、マレーシア、ベトナム、タイ、オーストラリア等)の充実及び新たな交流国の開拓</p> <p>イ・台湾姉妹校や、高校との連携による高校姉妹校との交流の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・中高合同の学校行事の効果的な実施と成果を検証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 文化祭・体育祭における準備委員会を高校生と協働で活性化させる。</li> <li>② 体育祭を校外体育館で実施し、伝統を継承しつつ、新たな形態を作り上げる。</li> <li>③ 修学旅行等を3年間見通した計画を立てることで、内容の充実を図る。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高合同の部活動指導の拡大を図る。</li> <li>・部活動への参加を奨励し、文武両道をめざすとともに中高一貫した指導体制を整える。</li> </ul> <p>イ・中学校段階に相応しい人権及び生徒指導研修を計画・実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶、遅刻指導の充実と基本的な生活習慣を身につけさせる。</li> </ul> <p>ウ・生徒自らが課題を見つけ、自分自身や仲間とともに解決していこうとする力を育てる。中心となる活動として「マークハート運動」を実施し、学校全体で取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づきいじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</li> <li>・演劇的な手法を用いてコミュニケーション力の育成を図る。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・高校との連携も含め、台湾やマレーシア、オーストラリア、タイをはじめとする様々な国の生徒との交流の可能性を探る。</p> <p>イ・台湾姉妹校交流方法を工夫改善し、異文化を理解する態度をはぐくむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校との連携により高校姉妹校との交流の可能性を探る。</li> <li>・コミュニティ・スクールのしくみを活用し、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にして実施する。(中学ではマレーシア等でグローバルリーダー育成海外研修旅行を企画し、世界的な視野を広めるとともに、多様性を理解しようとする態度をはぐくむ。)</li> </ul> <p>※新型コロナ禍において、海外研修等海外への旅行の可否に関わらず実施可能なグローバルプログラムを検討し、実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒) 学校教育自己診断結果における行事満足度 90%以上の維持向上をめざす。[92%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率 90%以上[86%]をめざす。</li> </ul> <p>イ・課題に合致した人権研修の実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度 90%以上の [93%] をめざす。</li> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における校則遵守率 90% [94%] を維持する。</li> </ul> <p>ウ・「マークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取り組みについて12月実施をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度 85% [90%] 以上維持をめざす。</li> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度「相談できる先生」55%以上 [57%]、「相談できる友達・先輩後輩等」80%以上 [86%] をめざす。</li> <li>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成について文化祭(6月)発表を目途に5月～6月中での実施をめざす。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・多くの生徒が海外の中・高校生との2カ国以上の交流をめざす。 [1ヶ国]</p> <p>イ・台湾の姉妹校と今後の交流について12月までの意見交換をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクールのしくみを活用しグローバルリーダー育成海外研修の実施について、新型コロナ禍における実施可能なグローバルプログラム検討について定例的な開催(年3回以上)をめざす。 [新規]</li> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果で国際交流満足度 90%以上[96%]維持をめざす。</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒) 学校教育自己診断結果における行事満足度 99% (◎)</p> <p>行事満足度はかなり高い。体育祭や修学旅行がコロナの影響を受け、変更を余儀なくされた。今年度の経験を踏まえ、活動内容の更なる充実を図るとともに、中高生徒会の連携をさらに強化していきたい。次年度も90%以上を維持。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動加入率 86% (△)</li> </ul> <p>広域(府内全域)から通学する本校の実態と中学生の発達段階から鑑みて90%以上の入部は高水準ととらえている。</p> <p>しかし、部活動指導の中高一貫した指導体制はかなり進んだ。次年度も部活動への参加を奨励し、文武両道をめざすとともに中高一貫した指導体制の更なる充実を図り次年度も90%以上をめざす。</p> <p>イ・下記に係る項目について人権研修を2回実施した。</p> <p>生徒理解、児童虐待</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における人権教育満足度 96% (◎)</li> </ul> <p>多様性の理解に係る新規プログラムを重点に取り組みを進めた成果が出たと感じる。具体的には制服の見直しについて、多様性の理解という観点から生徒に考えさせる機会を設けた。次年度は教職員研修の充実も図り90%以上維持をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における校則遵守率 96% (○)</li> </ul> <p>ウ・「マークハート運動」を実施し、生徒自らが課題を見つけ、解決に向けた取り組みについて12月に「ルールを守る ～社会性の向上へ～」をテーマに実施した。(○)</p> <p>次年度は制服の見直しに係り、校則について自ら考えさせる機会を増やしていき90%以上の維持をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における「いじめ対応」に対する満足度 94% (◎)</li> </ul> <p>専門家(SSW・SC)の視点からのアドバイスを日常の指導に生かした結果高水準を維持できた。次年度は90%以上維持をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果における悩み相談の満足度 (○)</li> </ul> <p>「相談できる先生」63% 「相談できる友達・先輩後輩等」86%</p> <p>教員への研修機会を充実させ次年度は先生60%以上、友達・先輩80%以上をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇的な手法を用いたコミュニケーション力の育成を目的に演劇をチームで取り組ませ文化祭(7月)で発表した。※コロナ禍において文化祭の実施時期を7月に変更した。取り組みについては計画通り2か月間実施し成果として発表できた。(○)</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・姉妹校である北大高級中学(台湾)とのメールのやりとりやオンラインでの交流を実施した。</li> </ul> <p>※コロナ禍の中で交流国は1ヶ国となったが、タブレット端末をフル活用し姉妹校との交流を重点に新たな取り組み(タブレットを活用した対話や互いの国についてのプレゼンテーションやビデオレターの交換など)従来より進んだ取り組みもでき異文化を理解する態度をはぐくめた。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響により、国内でのグローバルプログラムを予定(8月・1月)し実施直前まで取り組んだがコロナ感染状況悪化により実施できなかった。(一)</li> <li>・(生徒) 学校教育自己診断結果で国際交流満足度 93% (○)</li> </ul>
--	---	--	---	---



## 府立富田林中学校

<p>4 中高一貫校としての組織の活性化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) 中高一貫校として再編した分掌組織を機能させ、6年一貫した教育活動の充実を図る。</p> <p>ア 中高一貫の観点でそれぞれ校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、その中で人材育成を図る。</p> <p>イ 全国的な教育課程研究会への参加や、全国の教育先進校の視察を行い、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。</p> <p>ウ 中高一貫校として、またコミュニティ・スクールとして相応しい学校Webページの充実を図るとともに、情報発信について質・量ともに改善する。</p> <p>(2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。</p> <p>ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりの推進</p> <p>イ 安全・安心な学校づくり</p> <p>ウ 地域貢献を推進</p> <p>エ 120周年記念事業に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させるとともに、再編整備した委員会を機能させる。</p> <p>イ 全国の先進中高一貫校の視察と情報収集を通してカリキュラムや組織体制を充実させる。</p> <p>ウ 中高一貫校としてふさわしい学校Webページに一新すべく、プロジェクト化して取組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、学校運営や学校の課題に対して、教育課程を社会に開きより多くの方が学校運営に参画できるように努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「めざす学校像」の共有化を図るとともにコミュニティ・スクールについて情報収集及び研修を行う。</li> <li>コミュニティ・スクールのしくみを活用し、トップランナーによる講演を実施し、高い志をはぐくむ。</li> </ul> <p>イ・教員だけでは対応できない教育課題解決のための人材（SC、SSW、識者等）を「学校支援チーム」に効果的に配置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中高一貫した防災教育計画に基づき防災訓練等を実施するとともに、安全安心のための学校環境の整備を行う。</li> <li>安否確認等を迅速に行えるよう、適当な時期に想定訓練を実施する。</li> </ul> <p>ウ・広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）を活用し、地域を知るとともに地域の課題を発見させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域からの要請に応えるだけでなく、地域に出かける活動を取り入れる。</li> <li>広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）と協働で探究活動の成果発表の場である「学びと育ち」地域フォーラムを開催する。</li> <li>地域貢献活動を実施する。</li> </ul> <p>エ PTA や高校同窓会とともに120周年記念事業委員会を発足させ、記念事業を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア（教員）分掌・教員間での中高連携満足度 60%以上を維持向上する。[61%]</p> <p>イ 中高一貫校等の先進校情報を収集し、職員会議等での情報共有をめざす。（2回以上）[2回]</p> <p>ウ（保護者）学校教育自己診断における情報発信の満足度 90%以上を維持する。 [92%]</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより多くの方が学校運営に参画した熟議開催（2回以上）をめざす。[2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（生徒）学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上維持をめざす。[96%]</li> </ul> <p>（保護者）学校教育自己診断における「学校満足度」90%以上を維持する。[95%]</p> <p>イ・専門人材（SSW、SC、識者等）を活用し、機関連携や研修・講演等の1回以上の実施をめざす。[1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連絡手段体制が確立をめざした想定訓練等の1回以上の実施をめざす。[1回]</li> </ul> <p>ウ・広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）を活用し、南河内探究、社会探究、課題提案探究について10月～3月での実施をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（教員）企業・大学・自治体等の外部団体との連携による教育活動の充実90%以上を維持する。[100%]</li> <li>生徒会が中心となり幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動の1回以上の実施をめざす。 [1回]</li> <li>河川清掃などの地域でのボランティア活動の1回以上の実施をめざす。</li> </ul> <p>（生徒）社会貢献意識の育成満足度90%以上を維持する。 [94%]</p> <p>エ 120周年記念事業委員会の定期的開催をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア（教員）分掌・教員間での中高連携満足度 60%以上を維持向上する。 25%（△）</p> <p>中・高教員間連携については5年目を迎え連携が本格化した。そのため新たな課題に対する連携が必要となっている。次年度は50%以上をめざす。</p> <p>イ・中高一貫校等の先進校情報を収集し、職員会議等での情報共有3回（◎）</p> <p>目標は達成できた。コロナ禍においても次年度は2回以上実施をめざす。</p> <p>ウ・（保護者）学校教育自己診断における情報発信の満足度 88%（△）</p> <p>ホームページは一新できたがコロナ事態への対応や教育活動の変更等により十分な発信が不可能となった。次年度は90%以上への回復をめざす。</p> <p>(2)</p> <p>ア学校運営協議会を設置し、取り組み内容についてより熟議を開催し積極的に意見をいただいた。3回（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>滋賀県立学校教職員研修（滋賀県教育委員会主催）において先進的な取り組み事例（高校型コミュニティ・スクール）として講演（6月）した。</li> <li>（生徒）学校教育自己診断における「学校満足度」95%（○）</li> <li>（保護者）学校教育自己診断における「学校満足度」97%（○）</li> </ul> <p>次年度も90%以上の満足度（生徒・保護者）をめざす。本校生徒・保護者に満足いただくことはもちろん、本校の取組みを全国に発信していく。</p> <p>イ・専門人材（SSW、SC、識者等）を活用し、機関連携や研修・講演等の1回以上の実施をめざす。 1回（○）</p> <p>生徒・保護者からの生徒指導に関する高評価いただいたように、専門家の視点からの指導助言を受ける機会を確保していく。次年度は2回以上の研修をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連絡手段体制が確立をめざした想定訓練等を実施した。 1回（○）</li> </ul> <p>ウ・広域外部サポーター（同窓会、自治体、企業、大学、NPO等）を活用し、南河内探究、社会探究、課題提案探究について10月～3月で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（教員）企業・大学・自治体等の外部団体との連携による教育活動の充実90%以上を維持する。 100%（○）</li> <li>次年度は内容の充実を図り90%以上の実施をめざす。</li> <li>コロナ禍の中、幼稚園・小学校・中学校等と連携した活動ができなかった。 0回（－）</li> <li>河川清掃などの地域でのボランティア活動を3月に予定していたがコロナ禍により中止（－）</li> <li>（生徒）社会貢献意識の育成満足度 96%（○）</li> <li>コミュニティ・スクールとしての教育活動が教育課程の中に位置づいてきたことが満足度の高さに表れている。（企業等の社会貢献活動に触れる機会が多く、生徒の意識向上につながっている。）次年度も90%以上をめざす。</li> </ul> <p>エ 120周年記念事業委員会を8回開催した。記念事業として、記念誌原稿が完成した。また、玄関及び自習コーナーを記念改装した。 （◎）</p>
-------------------------------------	---	---	--	---

## 府立富田林中学校

<p style="text-align: center;">5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) 業務効率の向上を図り、職員の心身の健康を維持する。</p> <p>ア ノークラブデー、ノー残業デーの徹底し、時間外勤務を縮減する。</p> <p>イ 校務の見直しによる業務の軽減化</p> <p>ウ 「外部人材の活用等人的措置」により教職員の負担軽減を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 各クラブのノークラブデーの徹底を周知するとともに、本校のノー残業デーである金曜日に掲示板等での呼び掛けも行って、定時退勤を促す。</p> <p>イ・校務(事業等)を見直すことで業務の軽減化を図る。</p> <p>ウ・教育課題解決のための人材(SC、SSW、学生サポーター等)を「学校支援チーム」として効果的に配置することにより教職員の負担軽減をはかる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(教員) 生徒や教職員への安全管理満足度 75%以上をめざす。 [78%]</p> <p>イ・校務の見直し等を検討する安全衛生委員会の年5回以上の開催をめざす。 [9回]</p> <p>ウ・「学校支援チーム」連絡会議の3回以上の開催をめざす。</p> <p>ア、イ、ウとも、 (教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 90%以上維持をめざす。 [94%]</p> <p>(教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 70%以上の維持をめざす [83%]。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(教員) 生徒や教職員への安全管理満足度 75% [78%] (○)</p> <p>イ・校務の見直し等を検討する安全衛生委員会の年5回以上の開催をめざす。 コロナ対応に係る打ち合わせ会議、関係機関との調整により予定していた回数を実施できなかった。 3回 (△)</p> <p>ウ・「学校支援チーム」連絡会議の3回以上の開催をめざす。 1回[新規] (ー) ※予定していたがコロナ禍の中実施できず。</p> <p>ア、イ、ウとも、 (教員) 大学生・民間人等の支援による教育活動充実度 90%以上維持をめざす。 42% (△)</p> <p>大学院生・大学生等の受け入れ人数を維持しつつ支援内容についてさらに充実させるようにする。充実度 50%をめざす。</p> <p>(教員) 学校教育自己診断結果における富田林中学校での勤務満足度 83% (○)</p>
---	--	--	---	--